

- ・併用してはいけない市販薬ですが、〇〇剤と言われてもピンと来ません。私は転勤先の初勤務の前日の夜に（恐らく飲みすぎによる）激しい嘔吐と下痢に襲われて、医師に相談する時間がなかったのでとにかくすぐに手に入る薬でしのぎました（3日経った今も続いています）。幸い、こちらのページで見たら使った風邪薬や下痢止め薬には併用禁止の成分は入っていませんでしたが、具体的に商品名が挙げられていると慌てて市販薬を買うときの助けになると思います。今回は胃腸薬を偶然使わなかったのでよかったです。今後急に飲まなくてはならない状況がないこともないと思うのです。××は禁止、△△は要相談、□□は問題なし、のようにしてくれると本当にありがたいと思います。（2009/01/06）
  - ・最新抗 HIV 医薬品の情報や、研究動向。耐性ウイルスに関する詳しい情報など。（2009/01/19）
  - ・新薬の情報。周囲の患者に対するサポートなど（2009/01/31）
  - ・インタビューフォーム（2009/06/03）
  - ・アイセントレス錠 400mg がない！（2009/07/07）  
感染したと初めて知った人は相談する相手がなかなかいないと思う。いくら医療関係者が大丈夫と説いてもやはり患者の声にはかなわないのでは・・・外来で泣きながら座っている人を見ると辛い。そちらで通院している患者さんで、告知を受けた人に向けた一言メッセージなんかは病院のホームページに載せるのは難しいんでしょうか？ピアカウンセラーみたいに濃厚になるのではなく、ただ一言自分も最初は不安だった。でも、生きていと伝えてほしい・・・（2009/12/19）
  - ・緊急では無い（と思われる）気になることの相談みたいなこと。それをメールとかやりとりできたらいいかも・・・けど、結局は『病院に行ってください』とかになるのかな・・・（2010/05/03）
  - ・現在、私は「プリジスタナイブ 400mg」を服用していますが、ホームページの「患者向け医薬品ガイド」の PDF が開きませんでした。またこの分「薬カード」の更新もお願いできれば助かります。（2010/05/05）
  - ・最新の研究過程／結果の情報（2010/11/24）
  - ・最新の薬情報（2011/03/25）
  - ・病気の増え方（2011/6/24）
  - ・間違った知識と正しい知識との…比較と、エイズな関わった人（マザー・テレサ）などの紹介。（2011/8/13）
  - ・やはり、いまだに感染すればすぐに死ぬというイメージが一般的である。
  - ・自分自身、その意識で HIV/AIDS 治療の進歩も、病気の実態も調べることもしなかった。調べて現状を知り、検査を受けようと決断した経緯もある。いまとなつては、早期に検査を受けておくべきだったと思う。
  - ・感染防止を啓蒙する方向性は、過去から活発だが、感染したらどうなるのかを周知しないと検査をうけることを阻害する意識は減らないと思う。
  - ・このホームページは、すべての情報が網羅されていて、本当に知りたいと思う人には非常にいいページだと感じる。しかし、見る人のレベル、状態、意識はバラバラであり、その視点も組み込むべきでは？”（2011/8/24）
  - ・日本人の副作用の症例（2011/10/24）
- 【ご意見、ご要望】
- ・“忘れちゃだめー”を、他の病院、ひいては、HAART 療法を行っている方々で、希望する人全員が使えるようにしてもらえると、QOL の向上にも繋がると思います。（2006/06/22）
  - ・お薬忘れちゃだメールの送信時間を 1 時間単位じゃなくできたらもう少し短い単位で設定できるようにしてほしい メールからの web アクセスがメール到着後いつしてもカウントできてしまうのを時間制限にして欲しい（2006/08/05）
  - ・問い合わせ項目を作って欲しい（2007/01/24）
  - ・こちらの運動を率いる白阪先生の病院で命を助けていただき、おかげさまで元気に生きております。ほんとにほんとに感謝の気持ちでいっぱいです。自分が今までやってきた、性行動がこんな事態を招き、一生の病気を抱える事になりましたが、自分を見つめ直すチャンスだと気持ちをやっとな切り換えられるようになり、絶対に死ぬもんか!! と生きるチャンスの頂きましたし、この病気の恐ろしさも自分自身で身に染みてますし、自分が変な言い方ですが、殺人兵器だと肝に命じております。

自分も少なからず体感・体験してきたこの病気の事を何かの形で世にお知らせしていくことも自分ができることではないかと常々思っております。ほんとに先生方や看護師の方々、病院に携わって頂いている皆様、又僕の周りのみんなには感謝の気持ちでいっぱい、今はこんな事しか書けませんが、これからも僕のカラダを助けて下さい。僕も頑張ります。先生方も頑張ってください。ありがとうございます。(2007/11/09)

- ・大変充実したサイトだと思います。色も美しく見やすいです。(2008/05/30)
- ・患者用の掲示板を設けてほしい。(2008/06/06)
- ・副作用を自覚した時の解決方法、医師とのインフォームドコンセントのなされかたに対する不安が大変大きな問題になってます。実際にLOQに大きく関わってきていますので、なんとかその解決のために力になって欲しいと切に願います。(2008/10/21)
- ・この研究の服薬アドヒアランスの向上・維持に関する研究結果について興味があります。論文を送っていただきたいです(2008/10/21)
- ・大変勉強になります(2009/01/06)  
助かりました。ありがとうございました。(2009/01/06)
- ・今回、投薬を開始するにあたり薬の副作用を検索する際に、こちらに来ました。一般的な投薬のコンビネーションは病院から提示されているので、XとYの場合にはどういった副作用があるのかを見る必要があるのですが、今のような形式だとちょっと調べづらいかもしれません。薬によっては副作用の内容は類似しているので、単体の薬の見方は十分な情報だと思います。ありがとうございます。(2009/01/19)
- ・最近投薬を開始したものです。投薬開始の前日にこのHPを知りました。これを見て、いろんな不安が解消されたように感じます。副作用については、人それぞれで難しいですが、投薬前の人の不安を和らげるようなページがあっても良いと思いました。(2009/01/28)
- ・非常に良く出来ていると思います。これからもより一層の充実を期待します。(2009/01/31)

- ・特にありません。現状、知りたかったことが十分に記載されていました。(2009/05/06)
- ・忘れちゃダメダメールを送ってほしい(2009/06/03)
- ・毎日、新規の患者さんで忙しいようですが皆さん頑張ってください。あと、外来に椅子が少ないようですが、どうにかなりませんかね・・・体がしんどいので、座って待ってもらえたらいいですね。健康な私がしんどいから患者(服薬前の)さんはさぞかししんどいのでは・・・あ、ホームページとは何の関係もなかった。(2009/12/19)
- ・私は、発症1カ月経ったところで、まだあまり知識のない状態なのですが、こちらのページは、とても分かりやすい説明なので、本当によく理解できました。是非ともまた活用させていただきます。ありがとうございました。(2010/05/05)
- ・とても親切で非常に参考になりました。(2010/11/24)
- ・更新年月日の記載が欲しい。(2011/3/25)
- ・非常に分かりやすい。逆転写酵素とインテグラーゼの役割の違いが理解できました。要望はCXCR4とCCR5の生理的役割、正常時の役割を教えてくださいたいです。(2011/4/1)
- ・ありがとう(2011/6/24)
- ・最新情報、特に日本人感染者の副作用の状態を記載してほしい。(2011/6/26)
- ・医療従事者のHIV暴露に関する質問です。抗HIV治療ガイドラインによりますと、暴露由来患者のHIVに関する情報が不明な場合、患者さまのHIVスクリーニング検査を施行することになっていて、迅速検査が可能であれば施行、とあります。迅速検査を行った場合、通常のスクリーニングは不要でしょうか。行う場合には、ウィンドー一期を考慮して時期をずらすなどの配慮が必要でしょうか。ご教示ください。国際医療福祉大学病院 呼吸器外科(2011/8/3)
- ・とても分かりやすくなっていた。絵も入っていて役にたった。(2011/8/13)

## 考察

ユーザー数、ページビュー数とも年々増加しており(表1、表2)、当ウェブサイトの有用性は増々高

まっていると考えられる。

中でも「抗 HIV 治療ガイドライン」(分担研究者：鯉渕智彦)のアクセス数が多く、最新の治療動向への注目度が高いことが伺える。また印刷物とは違い、インターネット環境さえあれば世界中のどこからでも閲覧できるアクセシビリティの高さが大きな要因と思われる。

「抗 HIV 治療ガイドライン」とともに、アクセス数の多いのが「HIV ってどんな病気？」(分担研究者：栗原健)である。これは患者さん向けにイラストを多用しながら平易な文章で解説したものである。テーマごとに複数ページに分割しているため、個々のページビュー数は「抗 HIV 治療ガイドライン」より少ないが、カテゴリー単位で比較すると圧倒的にアクセス数が多い。表 15 はカテゴリー別の集計であるが、各カテゴリーの公開時期が異なるため、2011 年のページビュー数を集計した。

表 15 カテゴリー別 (2011 年 1 月～12 月)

| カテゴリー             | PB 数    |
|-------------------|---------|
| HIV 感染症ってどんな病気？   | 76, 303 |
| おくすりガイド           | 34, 160 |
| 抗 HIV 治療ガイドライン    | 20, 926 |
| 外来チーム医療マニュアル      | 9, 982  |
| 症状から探す重大な副作用      | 4, 079  |
| 推奨処方のエビデンスとなる臨床試験 | 3, 255  |
| 研究者プロフィール         | 1, 648  |
| 研究の概要             | 1, 252  |
| 忘れちゃダメメール         | 1, 171  |

薬の種類も多様化し、患者さんから見ればその違いが分かりにくいため、このような解説が広く求められていると考える。

閲覧者の評価は「役に立った」が 84%、「一部、役に立った」が 10%、合わせて 94%が有益であったと回答している(表 9)。その要因はコンテンツの多様性と、インターネットに最適化したインターフェースにあると考える。

多様性とは、患者さんに向けた情報「早分かり！症状から探す重大な副作用」、「HIV ってどんな病気？」、「おくすりガイド」(以上、分担研究者：

栗原健)、「忘れちゃダメメール」(研究代表者：白阪琢磨)があり、医療関係者向けには「推奨処方のエビデンスとなる臨床試験」、「抗 HIV 治療ガイドライン」(以上、分担研究者：鯉渕智彦)、「HIV 診療における外来チーム医療マニュアル」(研究代表者：白阪琢磨、他)と、これだけ幅広い情報を 1 つのサイトにまとめたところは他に無い。これは厚生労働科学研究だからこそ実現できたと考える。

またインターフェースとしては、印刷物の内容をそのままインターネット上に載せるのではなく、インターネットの特性を生かした表現や、視覚障害者が利用する音声ブラウザ、スクリーンリーダーにも対応したユニバーサルデザインを採用している点が、他サイトと大きく異なる。

以上の点から、haart-support.jp は医療関係者、患者さんや一般の方々など幅広い層に有用な情報を提供していると考えられる。

## 結論

アクセス動向の分析やアンケートの結果から、haart-support.jp の有用性を証明することができた。患者さんから医療関係者まで幅広い層をカバーした HIV/AIDS 関連の Web サイトは他に例がなく、厚生労働科学研究だからこそ実現できたものである。閲覧数が年々増加していることから、今後も継続して運用していくことが重要と考える。

今後は Twitter や Facebook といったソーシャルメディアでの情報発信、スマートフォンへの最適化、メーリングリストなどへの更新情報の告知などを行えば、より効果的な情報発信が期待できる。

## 健康危険情報

該当なし

## 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

## 研究発表

該当なし



---

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

**HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究  
総合研究報告書**

発行：平成 24 年 3 月

発行者：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班

研究代表者 白阪 琢磨

〒540-0006 大阪府中央区法円坂 2-1-14

国立病院機構大阪医療センター

HIV/AIDS 先端医療開発センター

TEL 06-6942-1331

---

